

河川事業

再評価原案準備書

- 1 石狩川直轄河川改修事業
- 2 石狩川直轄河川改修事業(北村遊水地)
- 3 石狩川総合水系環境整備事業
- 4 十勝川総合水系環境整備事業

事業名 (箇所名)	石狩川直轄河川改修事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	北海道開発局				
実施箇所	北海道札幌市、旭川市、江別市、岩見沢市、砂川市、滝川市、深川市等				評価 年度	令和5年度				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
主な事業の諸元	堤防整備、河道掘削、護岸、遊水地等									
事業期間	事業採択	平成19年度	完了	令和18年度						
総事業費 (億円)	約11,343		残事業費 (億円)	約4,502						
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年8月上旬に、それまでの洪水を大きく上回る既往最大の洪水が発生しているほか、近年においても洪水被害が発生している。 ・平成19年9月に石狩川水系河川整備計画が策定され、段階的に整備を進めているが、ほぼ全区間で、戦後最大規模の洪水を安全に流下させるための河道断面が不足している。 <p>主な洪水被害</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和36年7月洪水 : 氾濫面積 52,300ha、浸水家屋 23,300戸 昭和37年8月洪水 : 氾濫面積 66,100ha、浸水家屋 41,200戸 昭和50年8月洪水 : 氾濫面積 29,200ha、浸水家屋 20,600戸 昭和56年8月上旬洪水 : 氾濫面積 61,400ha、浸水家屋 22,500戸 昭和56年8月下旬洪水 : 氾濫面積 5,700ha、浸水家屋 12,200戸 昭和63年8月洪水 : 氾濫面積 6,500ha、浸水家屋 2,000戸 平成13年9月洪水 : 氾濫面積 3,800ha、浸水家屋 70戸 平成23年9月洪水 : 氾濫面積 100ha、浸水家屋 8戸 平成26年8月洪水 : 氾濫面積 300ha、浸水家屋 32戸 平成28年8月洪水 : 氾濫面積 1,000ha、浸水家屋 212戸 平成30年7月洪水 : 氾濫面積 300ha、浸水家屋 13戸 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後最大規模である昭和56年8月上旬洪水を安全に流下させることを目標に、堤防整備や河道掘削等を行い流下断面不足の解消を図る。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標 : 水害等災害による被害の軽減 ・施策目標 : 水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数 : 4625戸 年平均浸水軽減面積 : 2490ha									
事業全体の投資効率性	基準年度		令和5年度							
	B:総便益 (億円)	67,810	C:総費用(億円)	14,527	全体B/C	4.7	B-C (億円)	53,283	EIRR (%)	25.7
残事業の投資効率性	B:総便益 (億円)	8,947	C:総費用(億円)	3,399	継続B/C	2.6				
感度分析	事業全体のB/C		残事業のB/C							
	残事業費 (+10% ~ -10%)	4.6 ~ 4.8	2.4 ~ 2.9							
	残工期 (+10% ~ -10%)	4.7 ~ 4.7	2.6 ~ 2.7							
	資産 (-10% ~ +10%)	4.2 ~ 5.1	2.4 ~ 2.9							
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる見込みである。 ・整備により、浸水家屋が約77,000戸解消され、氾濫面積が約63,300haから約150haに軽減される。 ・同様に、避難率0%の想定死者数を約290人から0人に軽減できる。 ・同様に、電力の停止による影響人口を約102,000人から0人に軽減できる。 									
社会経済情勢等の変化	<p><災害発生時の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流域自治体人口及び世帯数は、平成27年と比べるとほぼ横ばいである。 ・河川沿いに市街地や主要交通機関が位置しており、石狩川流域人口は北海道の人口の約6割を占め、人口や資産の密集した地域である。また、石狩川流域は北海道有数の穀倉地帯を形成しており、主な農作物である水稲、そばは石狩川流域で全道の約50~70%の生産量を占めている。 <p><地域の協働体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石狩川治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした様々な治水促進期成会が、石狩川の治水事業の促進を目的に組織されている。各期成会は毎年治水効果の早期向上を要望している。 ・気候変動により増大する将来の水災害リスクを地域社会と共有し、社会全体で水災害リスクを低減する取組を強化することを目的に、関係機関で構成される「石狩川下流域外減災対策協議会」及び「石狩川上流域外減災対策協議会」を開催し、石狩川の現状と課題を共有するとともに、各機関が減災のために取り組む事項を検討し、各種取組を実施している。 ・地域住民、河川協力団体などと連携・協働し、河川清掃・自然体験・植樹活動などの取り組みを実施している。 <p><関連事業との整合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・南富良野町、旭川駅周辺等で観光振興や地域経済の活性化を目的とした水辺整備を行い、広域観光・まちづくりによる賑わいの創出により地域活性化を図っている。 									
主な事業の進捗状況	<p><堤防整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩川と豊平川等の支川において堤防整備を実施した。また、旭川市街部については浸透流対策として質的整備を実施した。 <p><河道掘削></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩川、豊平川、幾春別川、空知川、雨竜川などで河道掘削を実施した。 <p><千歳川流域の治水対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩川の洪水時の背水の影響を長時間かつ長区間にわたって受ける千歳川において、堤防整備および河道掘削を実施した。 ・千歳川遊水地群の全てが完成した。 									
主な事業の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・当面の整備として、人口・資産が集中する石狩川の市街部の堤防整備及び河道掘削を実施する。千歳川の堤防整備(二次盛土)の実施、豊平川及び石狩川上流の河床低下対策を実施、北村遊水地を完成させる。 ・堤防整備や河道掘削等の河川改修事業は着実に進捗しているが、流域の地方公共団体等からは安全度向上に対する強い要望があり、引き続き地域住民や関係機関と連携し事業の進捗を図る。 									
コスト削減や代替案立案等の可能性	<p><コスト削減></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流域自治体との連携により、河道掘削が発生した残土を公共施設の整備に有効活用することで、残土処理費のコスト削減を実施している。 ・伐開工事に伴う発生材の有価物としての売却や、一般市民への配布などにより処分費のコスト削減を実施している。 <p><代替案立案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩川水系河川整備計画検討時には、河道改修と遊水地事業による治水対策案を検討した。その結果、コストや社会への影響等の観点から、遊水地事業による対策案が優位と評価している。今般、事業進捗に伴う事業費の増加を考慮したが、遊水地案はコスト面等での優位性に变化がないことを確認した。 									
対応方針	継続									
対応方針理由	事業の必要性・重要性は変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。									
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>(第三者委員会後、意見を反映)</p> <p><都道府県の意見・反映内容></p> <p>「石狩川直轄河川改修事業」を「継続」とした「対応方針(原案)」案について異議はありません。</p> <p>当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、近年の大雨による甚大な洪水被害を踏まえ、早期完成を図るようお願いいたします。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、サケ・マス等の生息環境などの保全に努めるとともに、より一層の徹底したコスト削減を図り、これらについて適時適切に情報提供を行うなど、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。</p>									

事業名 (箇所名)	石狩川直轄河川改修事業(北村遊水地)			担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	北海道開発局															
実施箇所	北海道岩見沢市、月形町、新篠津村					評価 年度	令和5年度															
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業																					
主な事業の諸元	遊水地																					
事業期間	事業採択	平成24年度	完了	令和12年度																		
総事業費 (億円)	約1,402			残事業費 (億円)	約872																	
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 石狩川下流部については、昭和56年降雨を対象とした築堤、掘削等の河川改修が概成し北村遊水地事業を残すのみである。 現在着手していない石狩川中上流部の河川改修を行うためには、改修による流量増をカバーする北村遊水地が必要である。 <p>主な洪水被害</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和36年7月洪水 : 氾濫面積 52,300ha、浸水家屋 23,300戸 昭和37年8月洪水 : 氾濫面積 66,100ha、浸水家屋 41,200戸 昭和50年8月洪水 : 氾濫面積 29,200ha、浸水家屋 20,600戸 昭和56年8月上旬洪水: 氾濫面積 61,400ha、浸水家屋 22,500戸 昭和56年8月下旬洪水: 氾濫面積 5,700ha、浸水家屋 12,200戸 昭和63年8月洪水 : 氾濫面積 6,500ha、浸水家屋 2,000戸 平成13年9月洪水 : 氾濫面積 3,800ha、浸水家屋 70戸 平成23年9月洪水 : 氾濫面積 100ha、浸水家屋 8戸 平成26年8月洪水 : 氾濫面積 300ha、浸水家屋 32戸 平成28年8月洪水 : 氾濫面積 1,000ha、浸水家屋 212戸 平成30年7月洪水 : 氾濫面積 300ha、浸水家屋 13戸 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 戦後最大規模である昭和56年8月上旬洪水を安全に流下させることを目標に、堤防整備や河道掘削等を行い流下断面不足の解消を図る。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標: 水害等災害による被害の軽減 施策目標: 水害・土砂災害の防止・減災を推進する 																					
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数: 358戸 年平均浸水軽減面積: 235ha																					
事業全体の投資効率性	基準年度		令和5年度																			
	B:総便益 (億円)	4,146	C:総費用(億円)	1,323	全体B/C	3.1	B-C (億円)	2,823	EIRR (%)	9.5												
残事業の投資効率性	B:総便益 (億円)	4,123	C:総費用(億円)	692	継続B/C	6.0																
感度分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業全体のB/C</th> <th>残事業のB/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残事業費 (+10% ~ -10%)</td> <td>3.0 ~ 3.3</td> <td>5.4 ~ 6.6</td> </tr> <tr> <td>残工期 (+10% ~ -10%)</td> <td>3.0 ~ 3.2</td> <td>5.8 ~ 6.1</td> </tr> <tr> <td>資産 (-10% ~ +10%)</td> <td>2.8 ~ 3.4</td> <td>5.4 ~ 6.5</td> </tr> </tbody> </table>											事業全体のB/C	残事業のB/C	残事業費 (+10% ~ -10%)	3.0 ~ 3.3	5.4 ~ 6.6	残工期 (+10% ~ -10%)	3.0 ~ 3.2	5.8 ~ 6.1	資産 (-10% ~ +10%)	2.8 ~ 3.4	5.4 ~ 6.5
	事業全体のB/C	残事業のB/C																				
残事業費 (+10% ~ -10%)	3.0 ~ 3.3	5.4 ~ 6.6																				
残工期 (+10% ~ -10%)	3.0 ~ 3.2	5.8 ~ 6.1																				
資産 (-10% ~ +10%)	2.8 ~ 3.4	5.4 ~ 6.5																				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 北村遊水地の整備とそれに関連する河川整備により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる見込みである。 整備により、浸水家屋が約73,000戸解消され、氾濫面積が約62,000haから約150haに軽減される。 同様に、避難率0%の想定死者数を約280人から0人に軽減できる。 同様に、電力の停止による影響人口を約101,000人から0人に軽減できる。 																					
社会経済情勢等の変化	<p><災害発生時の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> 流域自治体人口及び世帯数は、平成27年と比べるとほぼ横ばいである。 河川沿いに市街地や主要交通機関が位置しており、石狩川流域人口は北海道の人口の約6割を占め、人口や資産の密集した地域である。また、石狩川流域は北海道有数の穀倉地帯を形成しており、主な農作物である水稲、そばは石狩川流域で全道の約50~70%の生産量を占めている。 <p><地域の協力体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 「石狩川治水促進期成会」「北村地内治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした様々な治水促進期成会が、石狩川の治水事業の促進を目的に組織されている。各期成会からは、毎年治水効果の早期向上が要望されている。 地域住民、河川協力団体などと連携・協働し、河川清掃・自然体験・植樹活動などの取り組みを実施している。 <p><関連事業との整合></p> <ul style="list-style-type: none"> 北村遊水地事業により地域の生活環境や営農環境が変化するため、北村地域の新たなまちづくり、農業振興について地元住民も含めた各関係機関が情報交換、協議及び認識の共有を図るため、平成22年度に「北村地域連携調整会議」が設立された。 																					
主な事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 北村遊水地は平成24年度から事業着手し、民有地の用地買収地役権設定と石狩川囲ぎよう堤の工事を並行して進め、現在、旧美唄川囲ぎよう堤や周囲堤を含めた堤防工事、付替道等の補償工事を進める。 令和5年度末における進捗率は約38%となっている。 																					
主な事業の進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> 北村遊水地では、用地処理や囲ぎよう堤、周囲堤工事、補償工事を実施し、令和8年度の完成を目指していたが、地内居住者の移転に先立つ移転先の確保等に時間を要したため、令和12年度まで工期の延伸が必要となった。 																					
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p><コスト縮減></p> <ul style="list-style-type: none"> 当初は置き土ヤードを遊水地外の公用地を使用する計画だったが、地元土所有者等と綿密に調整を行い、遊水地内の置き土ヤードの確保が可能となったことにより、運搬コストの縮減を実施している。 <p><代替案立案></p> <ul style="list-style-type: none"> 石狩川水系河川整備計画検討時では、遊水地事業による治水対策のほか、河道掘削や堤防嵩上げ等による治水対策を検討した。その結果、コストや社会への影響等の観点から、河道改修と遊水地事業による対策案が優位と評価している。今般、事業進捗に伴う事業費の増加を考慮したが、遊水地案はコスト面等での優位性に変化がないことを確認した。 																					
対応方針	継続																					
対応方針理由	事業の必要性・重要性は変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。																					
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>(第三者委員会後、意見を反映)</p> <p><都道府県の意見・反映内容></p> <p>「石狩川直轄河川改修事業(北村遊水地)」を「継続」とした「対応方針(原案)」案について異議はありません。</p> <p>当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、近年の大雨による甚大な洪水被害を踏まえ、早期完成を図るようお願いいたします。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、環境の保全について十分配慮するとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これらについて適時適切に情報提供を行うなど、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。</p>																					

事業名 (箇所名)	石狩川総合水系環境整備事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課	事業 主体	北海道開発局
実施箇所	北海道札幌市、旭川市、恵庭市、砂川市、南幌町、南富良野町、美瑛町等				評価 年度	令和5年度
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業					
主な事業の諸元	<p>【旭川駅周辺かわまちづくり】 親水広場、取付道路、側帯等</p> <p>【南富良野町かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路等</p> <p>【江別市かわまちづくり】 高水敷整正、側帯、管理用通路、階段護岸等</p> <p>【砂川地区かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路、水路工等</p> <p>【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、管理用通路等</p> <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】 湿地整備等</p> <p>【美瑛川地区かわまちづくり】 高水敷整正、管理用通路等</p>					
事業期間	事業採択	平成27年度	完了	令和15年度		
総事業費(億円)	約29	残事業費(億円)		約13		
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <p>【旭川駅周辺かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 旭川駅前から繋がる平和通買物公園周辺を含む本市の中心市街地は、郊外型商業施設等の出店が相次ぎ、老舗百貨店が閉店するなど、相対的に本市における中心性が低下してきている。 ・徐々に中心性が薄れつつあった昭和60年代、中心市街地の将来像について検討がなされ、都心部の中心性の回復を図るとともに、懸案となっていた忠別川で分断されていた都心部と神楽地区の連続化を実現させるための整備事業を推進してきた。 ・そこで、JR 旭川駅南側地区を拠点としてかわまちづくり事業を推進し、市内に分散している観光・アイヌ文化教育の拠点となるエリア、常磐公園や旭川市科学館などの利活用の拠点となるエリアを「かわ」でつなぐことにより、新たな観光動線の創出やエリア間の観光客流動の活性化に伴う広域的な観光振興や活性化を一層推進する。 <p>【南富良野町かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空知川が近接する当該地区は、明治35年の十勝線の幾寅駅の開業を契機に森林鉄道が敷設され、木材の貴重な輸送手段として発展した。町内の金山地区と併せて多数の木材関連工場が操業し、明治後半から昭和にかけて「林業のまち」として賑わっていたが、現在は木材工場がなくなり、かつての賑わいが薄れてきつつあるのが実情である。 ・現在、空知川では、平成28年8月に発生した台風10号に伴う未曾有の洪水を安全に流下させることを目的に治水事業が進められている。水害時の迅速な水防活動・緊急復旧を目的として、幾寅地区の空知川左岸にMIZBEステーションを整備しているが、環境学習・防災教育等の文化活動や地域コミュニティの拠点としても活用する地元からの要望があり、平常時の利活用方法等を早急に検討する必要が生じた。 ・そこで、MIZBEステーションに併せて水辺とまちを一体的に整備し、MIZBEステーションの認知度・知名度、イベントでの利用価値、観光ポテンシャル等を向上させることで、交流人口の増加、水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベント等による広域的な観光誘客を図る。 <p>【江別市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩川と千歳川が合流する事業箇所周辺地域には、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった鉄道と舟運の結節点である江別港がかつて存在し、外輪船(旧岡田倉庫)などの歴史的建造物が残っている。 ・しかし、江別市街地築堤整備に伴う移設が必要となっており、江別市では令和5年度中の移設を予定している。 ・今回の堤防整備に併せて、外輪船(旧岡田倉庫)の歴史的景観を活かしつつ、水辺とまちを一体的に整備し、交流人口の増加、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出を行う。 <p>【砂川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年8月、道央自動車道砂川SAにスマートインターチェンジが開通したが、砂川市内へ観光客を誘引するための観光資源をどう作っていくかが課題となっていた。 ・また、石狩川の洪水調節のために平成7年に完成した砂川遊水地は、平常時は水上アクティビティや釣り、散歩等を楽しむオアシスパークとして利用され、美しい景観、広大な水辺空間等の魅力を有していた。 ・そこで、地元関係者・砂川市・河川管理者からなる「オアシスパークからゆめまちづくり協議会設立準備会」が平成28年1月に発足し、砂川オアシスパークを観光情報の拠点、休憩ポイント等として利活用するため、協議・検討が進められてきた。 ・平成30年1月、より具体的な事業計画の策定と実践のために協議会が設立され、市民及び関係者の期待も高まっている。 <p>【恵庭かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵庭市では、「恵庭市総合戦略」に基づき、職・住・観光機能の拡充のため、「ガーデンデザインプロジェクト」を推進しており、事業箇所付近の道と川の駅周辺を「花のビレッジ」と位置付け、花の拠点(公園)の整備及び新住宅団地建設を進めている。 ・事業箇所である漁川の河川空間は、隣接する市街地で展開される花の拠点及び新住宅団地と一体となった新たな「恵庭市の交流観光の拠点」として、市民及び観光客が、気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しみ過ごすことができる魅力あるレクリエーションエリアとしての役割を担うことが期待されており、河川空間へのアクセス向上、親水機能の向上等が課題となっている。 <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕張川下流部の高水敷には、ボグ(ミズゴケを主体とする湿原)が多くを占めた幌向原野の名残である高位泥炭が広く分布している。 ・夕張川の高水敷では、地表面付近の水分の染み出しにより泥炭層の表面から乾燥し、分解が進行している。その結果、本来は、泥炭地では見られないオオアワダチソウ(外来種)等の乾いた所を好む植物が高位泥炭地に侵入し、ホロムイコウガイ等の地域固有の希少な湿生植物の生育環境が消失してきている状況にあり、このまま放置すると、貴重なボグが失われるおそれがある。 <p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛町は、近年、青い池が観光名所となったほか、周辺に道の駅びえい「白金ビルケ」がオープンしたこともあり、多くの観光客が来訪して観光入込客数が増加している。 ・また、サイクリングイベント「センチュリーライド」の実施などにより、自転車利用者が増加している。 ・多くの観光資源は、美瑛川の上流(山岳・温泉エリア)と下流(丘陵・市街エリア)に分かれているため、つながりとしての川の役割が期待されている。 					

目的・必要性	<p><達成すべき目標></p> <p>【旭川駅周辺かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指す。 地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することによりJR旭川駅周辺の地域づくりに寄与する。 <p>【南富良野町かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と、ブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指す。 地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、幾寅市街地の地域づくりに寄与する。 <p>【江別市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江別市かわまちづくりは、外輪船(旧岡田倉庫群)の歴史的景観を活かしつつ、高水敷整正、側帯、管理用通路等の水辺整備を行うことで、市民が日常的に水辺を利用し、水辺とまちをつなぐ人の流れや民間活力を取り入れ、河川空間の賑わいを創出することを旨とする。 <p>【砂川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、自治体、協議会及び国が連携し、「砂川遊水地」を、より利便性及び安全性の高い親水レクリエーション空間として整備するものである。 国道12号沿線の砂川市街地中心部の商業施設等から至近の距離にある「砂川遊水地」について、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携した利活用を推進し、交流人口の増加、地域活性化等を目指している。 <p>【恵庭かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、恵庭市と国が連携し、漁川へのアクセス向上のための管理用通路及び親水施設の整備を行うものである。隣接する花の拠点(公園緑地)整備及び民間による新住宅団地の計画と連携して、より魅力的な水辺空間を創造し、交流人口の増加、居住環境の向上等を目指している。 <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幌向地区の自然再生は、石狩川下流において大きく減少した湿原の再生を目指し、石狩川下流自然再生計画書に基づき、石狩川の湿原の特徴であるボグを中心とした湿原を再生するものとする。整備に当たっては、目指す環境が最小限の人為的な補助により自然に再生されることを基本とする。 <p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、道道の近くを流れる美瑛川の河川空間をサイクリングコースとして活用し、上下流に分かれている観光地を結ぶことで、市街部周辺の観光地から白金温泉地区への観光客の誘導を行い、周遊性の向上による地域活性化やインバウンドを含めた観光の促進を図る。 																				
	<p><水辺整備></p> <p>【旭川駅周辺かわまちづくり】CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 488円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 194,208世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p> <p>支払い意思額: 380円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 839,386人日/年(観光客: 日帰り、平成30年度～令和4年度平均)</p> <p>【南富良野町かわまちづくり】 CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 595円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 44,231世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p> <p>支払い意思額: 947円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 234,197人日/年(観光客: 日帰り、平成30年度～令和4年度平均)</p> <p>【江別市かわまちづくり】CVMIにて算出</p> <p>支払い意思額: 429円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 62,599世帯(住民基本台帳 令和4年1月)</p> <p>支払い意思額: 825円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 527,965人日/年(観光客: 日帰り、平成28年度～令和2年度平均)</p> <p>【砂川地区かわまちづくり】 CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 636円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 56,776世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p> <p>支払い意思額: 495円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 202,538人日/年(観光客: 日帰り、平成30年度～令和4年度平均)</p> <p>【恵庭かわまちづくり】 CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 442円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 86,444世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p> <p>支払い意思額: 406円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 531,247人日/年(観光客: 日帰り、平成30年度～令和4年度平均)</p> <p>【美瑛川地区かわまちづくり】 CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 401円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 216,037世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p> <p>支払い意思額: 527円/人/日(観光客: 日帰り)、受益者数: 729,995人日/年(観光客: 日帰り、平成30年度～令和4年度平均)</p> <p><自然再生></p> <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】 CVMIにて算出(令和5年度算出)</p> <p>支払い意思額: 604円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 154,315世帯(住民基本台帳 令和5年1月)</p>																				
事業全体の投資効率性	<table border="1"> <tr> <td>基準年度</td> <td colspan="2">令和5年度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B:総便益(億円)</td> <td>1,209</td> <td>C:総費用(億円)</td> <td>37</td> <td>B/C</td> <td>32.3</td> <td>B-C</td> <td>1,172</td> <td>EIRR(%)</td> <td>53.4</td> </tr> </table>	基準年度	令和5年度									B:総便益(億円)	1,209	C:総費用(億円)	37	B/C	32.3	B-C	1,172	EIRR(%)	53.4
基準年度	令和5年度																				
B:総便益(億円)	1,209	C:総費用(億円)	37	B/C	32.3	B-C	1,172	EIRR(%)	53.4												
残事業の投資効率性	<table border="1"> <tr> <td>B:総便益(億円)</td> <td>851</td> <td>C:総費用(億円)</td> <td>11</td> <td>B/C</td> <td>75.7</td> </tr> </table>	B:総便益(億円)	851	C:総費用(億円)	11	B/C	75.7														
B:総便益(億円)	851	C:総費用(億円)	11	B/C	75.7																
感度分析	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">事業全体のB/C</td> <td colspan="2">残事業のB/C</td> </tr> <tr> <td>残事業費(+10%~-10%)</td> <td>31.4</td> <td>~ 33.2</td> <td>69.3</td> <td>~ 83.2</td> </tr> <tr> <td>残工期(+10%~-10%)</td> <td>31.8</td> <td>~ 32.8</td> <td>74.7</td> <td>~ 76.7</td> </tr> <tr> <td>便益(-10%~+10%)</td> <td>29.0</td> <td>~ 35.5</td> <td>68.1</td> <td>~ 83.2</td> </tr> </table>		事業全体のB/C		残事業のB/C		残事業費(+10%~-10%)	31.4	~ 33.2	69.3	~ 83.2	残工期(+10%~-10%)	31.8	~ 32.8	74.7	~ 76.7	便益(-10%~+10%)	29.0	~ 35.5	68.1	~ 83.2
	事業全体のB/C		残事業のB/C																		
残事業費(+10%~-10%)	31.4	~ 33.2	69.3	~ 83.2																	
残工期(+10%~-10%)	31.8	~ 32.8	74.7	~ 76.7																	
便益(-10%~+10%)	29.0	~ 35.5	68.1	~ 83.2																	
事業の効果等	<p>【旭川駅周辺かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「旭川駅周辺かわまちづくり」の整備により、既存アクティビティの機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、旭川市街地の認知度・知名度のさらなる向上、地域観光のゲートウェイであるJR旭川駅を中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図る。 <p>【南富良野町かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「南富良野町かわまちづくり」の整備により、MIZBEステーションの利活用施設としての機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、MIZBEステーションの認知度・知名度向上、MIZBEステーションを中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図る。 																				

事業の効果等	<p>【江別市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外輪船(旧岡田倉庫)は、江別市の芸術・文化の発信を目的としたイベントスペースとして活用されており、最近では海外アーティストの展示会やプロジェクションマッピング等が行われている。 ・近年、周辺では住民の転入や保育施設の開設等が見られはじめており、整備により日常的な散策や水辺利用が見込まれている。冬場はファットバイク・クロスカントリースキーコースを設定することで、周辺施設と一体となった水辺空間が創出され、地域の魅力向上と活性化に寄与する。 ・また、同時に江別市の観光誘客を推進することで、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客、交流人口の増加が期待される。 <p>【砂川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水護岸の整備や多目的広場の基盤整備等により、地域の住民及び砂川市を訪れる観光客が、水上及び水辺での様々なレクリエーション活動を、より安全、快適に行えるようになる。 ・また、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携することで、町の中心と水辺との間に人の流れを作り出し、地域の観光振興や地域活性化が期待される。 ・砂川遊水地の利用者数は順調に増加しており、平成30年度は約2.4万人の利用があった。 <p>【恵庭かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな親水エリアの創出や、これまでできなかった水際の水生生物観察などが可能になるとともに、隣接市街地と一体的な魅力的な水辺空間が形成される。 ・近年、新型コロナウイルス拡大の影響により観光市場全体が落ち込んでいるなかで、令和2年3月にリニューアルオープンした「道と川の駅 花ロードえにわ」の利用者数が100万人以上を維持しており、併設された直売所の売上げが大きく増加しているなど、集客力の高い施設となっている。 ・これらの観光施設や、周辺で多数展開されているイベントとの連携により、地域の交流人口の増加や観光振興など地域活性化が期待される。 <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほろむい七草を始めとした希少な湿生植物の生育地の形成に向け、ミズゴケ属の群落に代表される多様なボグの生育環境の形成が期待される。また、このボグの周辺では、ヨシ属・スゲ属群落に代表される多様なフェンの形成など、整備箇所周辺とボグの間の移行帯の形成が期待される。 ・現在、遮水壁の設置により湿地面積が回復傾向にあり、その効果が発現している。 <p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛町によるまちづくりと連携して、美瑛川の河川空間をサイクリングコースとして活用することにより、地域の活性化、滞在型観光の振興等が期待される。 ・また、ジョギング・クロスカントリースキー等の新たな地域資源の創出、自転車や歩行者の安全性向上、観光客の増加等による地域振興が期待される。
社会経済情勢等の変化	<p>①関連事業との整合</p> <p>【旭川駅周辺かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川からのまちづくりを基本コンセプトとし、忠別川沿いの自然環境空間と買物公園等、既存市街地の都市と自然の一体化を図り、中心市街地の賑わい創出と活力を取り戻すことを目的に実施した。忠別川の大きな景観を生かしながら、都心部にくつろぎの空間を創り出すことによって生活に潤いをもたらすとともに、雄大な自然環境や北国旭川の気候で育った植物を市民や観光客が身近に触れ楽しむことができる「あさひかわ北彩都ガーデン」等を整備した。 ・自転車利用の安全性・快適性の向上を図り、牛朱別川河川管理用通路への積極的な誘導を推進するため、「石狩川上流サイン設置指針」に基づき、牛朱別川左岸に案内標識を設置した。案内標識は設置箇所を最小限とし、ピクトグラムや英語表記を採用し、増水・道路交差の注意喚起や拠点施設までの距離等複数の機能を持たせ、利用者の視認性向上に貢献している。 <p>【南富良野町かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者のための休憩機能、道路利用者や地域の人々のための情報発信機能、地域のまち同士が連携する地域の連携機能という3つの機能を併せ持つ道路施設として、南富良野町と道路管理者が連携し、道の駅「南ふらの」を国道38号沿いに整備した。空知川に生息するイトウやアメマスを中心に自然に近い状態で展示しているほか、南富良野産の農産物加工品や木彫品、陶芸品、手芸品等を販売している。 ・国土交通省の令和元年度「重点道の駅」に選定されたことを受け、現在道の駅再編整備計画を推進しており、現在の道の駅を改修するとともに、レンタルショップやアウトドア商品を取り扱う複合型商業施設、公園等を新たに配置する予定。 <p>【江別市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江別市では、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年策定)に基づき、観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指している。具体的な施策として、石狩川や歴史的建造物などの地域資源を観光振興への有効活用とすること等を掲げている。 ・令和元年8月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」では、札幌市及び近隣の11市町村が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるために、戦略的な共同プロモーション事業等を実施しており、当該事業箇所を拠点として活用することを検討している。 <p>【砂川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のうち「新しい人の流れをつくる」を実現するために、行政、地域及び関係団体が連携して砂川オアシスパークの更なる利活用を通してまちの活性化を図る。 <p>【恵庭かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「恵庭市総合戦略」に基づき、恵庭市では「ガーデンデザインプロジェクト」として職・住・観光機能の拡充を推進しており、花のビレッジ(現 はなふる)、駅周辺の賑わいづくり、工業団地の用途拡大を機能的、複合的に推進すること等により、田園と都市の融合を目指している。 ・恵庭かわまちづくりは、「花のビレッジ」構想の施策の一つに位置付けられており、事業箇所に隣接する「花の拠点(公園)」及び「公園地区新住宅団地(スマートタウン)」と連携し、魅力的な河川空間の整備を図り、新しい「恵庭市の交流観光の拠点」の創出を目指している。 <p>【石狩川下流自然再生(幌向地区)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幌向地区の自然再生は、体験学習、環境教育など自然環境の保全に対する啓発や、幌向地区で再生される景観や様々な植生の観光資源としての活用を促進するなど、地域活性化に資する取組を行い、地域社会に貢献していく。 <p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛町では、「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」及び地元関係者協議の検討結果を踏まえ、美瑛川地区水辺整備として「駐車場の確保」、「案内看板の設置」、「休憩所などの設置」及び「景観への配慮」について計画している。 ・この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「美瑛川地区かわまちづくり」として国土交通省に申請し、平成26年3月26日に登録された。

社会経済情勢等
の変化

②河川等の利用状況

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・旭川市の河川敷地は、大雨等による川の増水時の水位の急激な上昇を抑える役割を果たしているとともに、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として河川空間を利活用している。
・忠別川・牛朱別川沿いの河川管理用通路で、散策やサイクリング等を楽しむ光景が見られる。
・忠別川沿いの「あさひかわ北彩都ガーデン」では、夏には「北彩都ガーデンフェスタ」、秋には「オータムガーデン」、冬には「冬の遊び広場」等多くのイベントが開催されており、多くの市民が様々なコンテンツを楽しんでいる。
・「あさひかわ北彩都ガーデン」は、庭園だけでなくランニングや歩くスキー等も楽しむことができ、令和3年度には約11.5万人が来場している。
・市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいる。

【南富良野町かわまちづくり】

・南富良野町は、度々空知川の洪水氾濫に見舞われてきた地域だが、河川整備が進められており、多くの町民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用している。
・空知川沿いの河川管理用道路で、散策やサイクリングを楽しむ光景が見られる。
・夏には「かなやま湖湖まつり」、冬には「氷点下まつり」等のイベントが開催されており、かなやま湖畔で多くの町民が森と湖を背景に行われる多彩なプログラムを楽しんでいる。
・カヌーによるかなやま湖の水上散歩やラフティングによる空知川の川下り等、様々なアウトドアアクティビティが行われている。
・かなやま湖畔キャンプ場にはログ風の水洗トイレ、炊事場、野外ステージが整備されており、毎年多くの利用者が来場している。

【江別市かわまちづくり】

・当該整備箇所では、春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」や「石狩川リバーセーリング」等、多くのイベントが開催されている。また、NPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいる。
・整備箇所に隣接する江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、年間約10.6万人(令和4年度)が来場している。
・他にも、市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいる。

【砂川地区かわまちづくり】

・「砂川遊水地」は、「砂川オアシスパーク」として生まれ、サイクリングやヨット、水上バイク、釣りなどに利用されるとともに、「石狩川下寛権(くだらんかい)川下り大会」、「ラブ・リバー砂川夏まつり」などのイベントが開催される水辺のレクリエーションエリアとなっている。

【恵庭かわまちづくり】

・事業箇所に近接する「道と川の駅 花ロードえにわ」は、年間約100万人の利用者があり、えにわマルシェなど様々なイベントが実施されている。
・また、「道と川の駅 花ロードえにわ」に隣接して水遊びのできる多目的広場ウォーターガーデンが設置されており、子供や家族連れでにぎわっている。
・事業箇所である漁川の河川空間は、散策、ジョギングやサイクリングなどに利用され、市内外から多くの人を訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっている。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・計画地周辺は、地域のNPO法人によるフットパス行事、環境教育・研究の場等として利用されている。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・美瑛川沿いの堤防は、各種スポーツイベントや日々の散策等に利用されている。

③地域開発の状況

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・旭川市の令和5年1月1日現在の人口は、約32万人であり、近年は減少傾向にある。

【南富良野町かわまちづくり】

・南富良野町の令和5年1月1日現在の人口は、約2千人であり、近年は減少傾向にある。

【江別市かわまちづくり】

・江別市の令和5年1月1日現在の人口は、約12万人であり、近年、大きな変化はない。

【砂川地区かわまちづくり】

・砂川市の令和5年1月1日現在の人口は、約1.6万人であり、近年、若干の減少傾向にある。

【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市の令和5年1月1日現在の人口は、約7万人であり、近年、大きな変化はない。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・南幌町の令和5年1月1日現在の人口は、約0.8万人であり、近年、大きな変化はない。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・美瑛町の近年の人口は約1万人で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で高齢化率は上昇傾向にある。
・観光面では、美瑛センチューライドなどのスポーツイベントの開催や、青い池の観光地化、道の駅びえい「白金ビルケ」の新規オープンなどにより、観光入込客数は近年増加傾向にある。一方で、丘陵地を訪れた人が白金温泉に滞在するという動線が定着しておらず、町内全体の宿泊客数は減少する通過型の観光になっていることが課題となっている。また、都市公園の面積は、平成22年以降横ばいとなっている。

④地域の協働体制

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・令和4年5月以降、「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」を計3回開催しており、JR旭川駅南側地区を拠点とする忠別川・牛朱別川の水辺整備・利活用方法や「かわまちづくり」計画等に関する協議結果を議事要旨としてとりまとめ、ホームページで公開している。
・また、ソフト・ハード施策の立案にあたり、河川管理者や地元事業者と合同で現地確認を行い、水辺空間の現状について認識を共有するとともに、整備・利活用や運営体制に関する意見交換を行っている。

【南富良野町かわまちづくり】

・令和4年10月、南富良野町、河川管理者、地元関係者等からなる「南富良野町水辺空間利活用意見交換会」を開催し、当該地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行うとともに、道の駅「南ふらの」やMIZBEステーション周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議した。
・令和5年2月、南富良野町、河川管理者、アウトドア事業者等からなる「空知川における都市・地域再生等利用区域勉強会」を開催し、当該地区やかなやま湖を含む空知川における都市・地域再生等利用区域の指定に向けた意見交換を行った。
・また、令和5年3月、南富良野町、河川管理者、自治会からなる「南富良野町河川空間利活用協議会」を開催し、かなやま湖周辺や空知川等の景観、歴史、文化及び観光資源や地域の創意を生かした水辺の賑わいの創出と将来のまちの活性化・元氣再生に寄与することを目的として、河川空間の利活用に関する意見交換を行った。

【江別市かわまちづくり】

- ・令和2年11月、江別市・学識経験者・地元関係者による「江別市かわまちづくり協議会」が設立され、外輪船周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組の協議が進められている。
- ・また、令和3年1月からは、江別市と河川管理者、地域住民による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を行っている。
- ・今後、河川占用許可準則第22条(都市・地域再生等利用区域の指定)に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指す。

【砂川地区かわまちづくり】

- ・砂川遊水地では、従来から市民団体がごみ拾いを行ったり、あじさいの植栽を行うなど、河川愛護活動が続けられている。
- ・流域自治体等で構成される地元期成会「北海道河川環境整備促進協議会」から、「河川等が連続した身近な公共空間・河川水面を地域固有の河川の特性を生かして利活用する、個性ある“まちづくり”に対する施策」及び「地域の特徴・魅力を高める水辺の整備」の積極的な推進が要望されている。
- ・平成28年1月に国、砂川市、NPO、地元住民などで構成する「オアシスパークからゆめまちづくり協議会 設立準備会」が設立され、かわまちづくりに関するワークショップで幅広い議論が行われるとともに、平成30年1月には「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が設立され、かわまちづくりを推進する環境が整っている。
- ・また、平成29年8月及び11月に、先例地の視察やウォーターヒルズスクエアを活用した物販、フリーマーケットなど新たな利活用を目指す社会実験の取組が実施され、これらの社会実験の結果を踏まえ、令和2年11月に都市・地域再生等利用区域の指定が決定した。

【恵庭かわまちづくり】

- ・恵庭市と関係団体、地域住民などで構成する「恵庭水と緑のまちづくり審議会」との協議を踏まえ、「ガーデンデザインプロジェクト」に沿ったかわまちづくりを計画している。
- ・また、「恵庭市観光推進協議会」、「恵庭一万本桜植樹市民の会」、「恵庭河川愛護会」などの恵庭市のまちづくりや観光推進の関係機関とも連携し、地域で一体となった体制で事業を進めている。
- ・漁川では、従来から市民団体がごみ拾いや植樹・植栽活動を行うなど、河川愛護活動が続けられている。
- ・令和5年6月にかわまちづくりの事業範囲の一部を含むエリアが「花の拠点かわゾーン地区」として、都市・地域再生等利用区域の指定がなされた。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

- ・「北海道河川環境整備促進協議会」及び「空知地方総合開発期成会」から、夕張川の自然再生の取組が要望されている。
- ・「石狩川下流自然再生実施計画書」に基づき、維持管理や環境教育、モニタリング調査、情報の発信・提供などについて地域のNPO、専門家、住民などと連携しながら取り組んでいる。
- ・これまで、地元NPO主催のフットパスイベントと連携した自然再生の紹介や地元自治体や教育委員会、郷土史研究会、NPO団体等からなる「幌向地区自然再生ワークショップ」による自然再生フォーラムの開催などの取組が実施されている。
- ・さらに、NPO等地域団体の連携による環境教育やフットパスイベントの取組、石狩川沿川の活動団体からなる「石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク」の設立など、連携協働の輪も広がっている。

【美瑛川地区かわまちづくり】

- ・流域自治体等で構成される「北海道河川環境整備促進協議会」「北海道上川地方総合開発期成会」「石狩川上流治水促進期成会」等の期成会から、美瑛川地区の環境整備事業促進が要望されている。
- ・美瑛町では、地元関係団体、有識者、行政関係者などからなる「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」が平成25年7月に設立され、美瑛川の堤防をサイクリングコースとして利用し、地域経済活性化を目指すための方策や、美瑛川沿いの砂防設備の周知、火山災害に関する防災意識向上を図る方策が検討され、同年12月に「美瑛川周辺における地域活性化のための整備のあり方に関する提言」がまとめられた。
- ・また、平成27年11月より「美瑛川地区かわまちづくりWG」を設立し、美瑛川沿いのサイクリングコースに必要な整備内容、地域との連携方法等について検討し、効果的な整備を推進している。
- ・さらに、地元住民等による防災施設の現地研修会も行われており、河川の利用に関しても、河川管理者、住民、学校などが、連携しながら河川清掃等の維持管理や防災・環境教育などに取り組んでいる。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

- ・令和6年度着手

【南富良野町かわまちづくり】

- ・令和6年度着手

【江別市かわまちづくり】

- ・事業進捗率:24%(総事業費2.6億円に対し、約0.6億円が実施済み)

【砂川地区かわまちづくり】

- ・事業進捗率:94%(総事業費4.8億円に対し、約4.5億円が実施済み)

【恵庭かわまちづくり】

- ・事業進捗率:91%(総事業費4.8億円に対し、約4.4億円が実施済み)

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

- ・事業進捗率:92%総事業費約4.0億円に対し、約3.7億円が実施済み)

【美瑛川地区かわまちづくり】

- ・令和元年度完了

【旭川駅周辺かわまちづくり】

- ・令和15年度完了(予定)

- ・親水広場、取付道路、側帯等

【南富良野町かわまちづくり】

- ・令和15年度完了(予定)

- ・親水護岸、高水敷整正、管理用通路等

【江別市かわまちづくり】

- ・令和14年度完了(予定)

- ・高水敷整正、側帯、管理用通路、アクセス通路、階段護岸等

【砂川地区かわまちづくり】

- ・令和10年度完了(予定)

- ・モニタリング

【恵庭かわまちづくり】

- ・令和10年度完了(予定)

- ・モニタリング

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

- 令和6年度完了(予定)

- ・管理用通路等

<p>コスト縮減や代替案立案等の可能性</p>	<p><コスト縮減の方策> 【旭川駅周辺かわまちづくり】 ・側帯盛土については購入土から土取場を活用することとし、約23百万円のコスト縮減を図る。 【南富良野町かわまちづくり】 ・今後、実施設計段階において、他事業の土砂活用等のコスト縮減対策について検討する。 【江別市かわまちづくり】 ・側帯整備に他事業で発生した掘削土を活用し、約4百万のコスト縮減を図る。 【砂川地区かわまちづくり】 ・管理用道路造成に他事業で発生したボックスカルバートを活用し、約14百万のコスト縮減を図った。 【恵庭かわまちづくり】 ・管理用道路造成に隣接する恵庭市による公園整備により発生した土砂を活用し、約32百万円のコスト縮減を図った。 【石狩川下流自然再生(幌向地区)】 ・植生移植を地元住民やNPOと連携して行うことで約18百万円のコスト縮減を図った。 【美瑛川地区かわまちづくり】 ・管理用通路の盛土に他事業の河道掘削により発生した土砂を流用し、約5百万円の縮減を行った。</p> <p><代替案立案の可能性> 【旭川駅周辺かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【南富良野町かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【江別市かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【砂川地区かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【恵庭かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【石狩川下流自然再生(幌向地区)】 ・整備内容については、計画段階から地域活動団体、有識者、国及び関係機関からなる「石狩川下流幌向地区ワークショップ」において議論を重ねており、現計画が最適である。 【美瑛川地区かわまちづくり】 ・整備内容については、地元関係者、有識者、行政関係者などからなる「美瑛川地区かわまちづくりWG」において議論を重ねた上で定めており、現計画が最適である。</p>
<p>対応方針</p>	<p>継続</p>
<p>対応方針理由</p>	<p>・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案とする。</p>
<p>その他</p>	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p><都道府県の意見・反映内容> 「石狩川総合水系環境整備事業」を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。 当該事業は、市町と連携して水辺整備を行うことにより、地域の活性化に寄与することなどから、地域の要望を踏まえ、早期完成を図るようお願いいたします。 なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。</p>

事業名 (箇所名)	十勝川総合水系環境整備事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課	事業 主体	北海道開発局				
実施箇所	北海道帯広市、音更町、池田町、幕別町、中札内村等				評価 年度	令和5年度				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
主な事業の諸元	<p>【十勝川水系自然再生】 掘削工(湿地)、掘削工(水際:エコトーン) 等</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 管理用通路、親水護岸整備 等</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 管理用通路、高水敷整正 等</p> <p>【札内川地区自然再生】 河道整正、樹木伐採 等</p>									
事業期間	事業採択	平成25年度	完了	令和35年度						
総事業費(億円)	約108		残事業費(億円)	約100						
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・十勝川及び主要支川では、水鳥等の生息環境となる湿地環境、水生生物の多様な生息環境となる水際環境(ワンド)、浅場から陸域への移行帯で抽水植物や水生生物の多様な生息環境となる水際環境(エコトーン)、礫河原依存種の生息環境となる礫河原等が減少している。 ・これらの生息環境の減少が、生物多様性など生態系へ影響を及ぼし、河川利用者の減少を招き、河川利用文化が衰退するおそれがある。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・十勝川中流域に位置する音更町、池田町及び幕別町においては、各自治体で拠点整備がされているため、個々に独立した観光施設が当地域内に点在している状況である。 ・そのため、十勝川中流域における施設間のネットワークの構築により、人の動きを活性化させることで、飽きさせない長期滞在型の観光地として、3町のまちづくりと一体となり地域振興に寄与することが求められている。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・帯広市では、「帯広市総合計画」に基づく帯広市新総合体育館の整備が完了した。 ・帯広市では、新施設の利活用を考える市民ワークショップが開催され、このワークショップにおいて、帯広市新総合体育館の周辺では、河川敷とのアクセスが確保されていない状況があること及び利用されていない土地があることが示され、河川敷の一体的な利用ができていない状況が明らかになるなど、十勝川河川敷の更なる利用の機運が高まっている。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・近年、札内川は、河道内の樹林化が進んでおり、かつて河道内に広く見られた礫河原が急速に減少している。 ・北海道指定の天然記念物で氷河期の遺存種であるケショウヤナギの自生地の一部が本事業箇所に含まれているが、ケショウヤナギについては更新地環境の衰退が懸念されている。 ・河道内の樹林化や礫河原の減少により水辺利用できる場所以が制限され、「川狩り」に象徴される河川利用文化の衰退のおそれがある。</p> <p><達成すべき目標></p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・十勝川水系に生息・生育・繁殖する動植物にとって良好な河川環境を目指し、湿地環境、水際環境、礫河原等の河川環境の保全・再生・創出を図る。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・音更町・池田町・幕別町と国が連携し、十勝川中流域の更なるにぎわいの創出や地域の観光振興を目指して、十勝川沿いの河川敷へのアクセス路の整備、水辺景観の改善等を行い、観光施設へのアクセス性を向上させ、サイクリングコースに沿った周遊観光ルートを構築することで、観光振興の促進を目指す。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・帯広市と国が連携し、帯広市新総合体育館の改築を契機に帯広市新総合体育館周辺の十勝川河川敷へのアクセス向上のための親水施設の整備を行うものであり、帯広市新総合体育館の運営事業者を中心に、全国規模のスポーツ大会及び練習場としての利用を想定し、都市・地域再生等利用区域を利用した地域活性化を図る。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・札内川に生息、生育及び繁殖する動植物にとって良好な河川環境を目指し、川の流れが持つ営力により礫河原を更新できるシステムの再生を図る。</p> <p><水辺整備></p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】【帯広市かわまちづくり】 CVMにて算出 支払い意思額: 654円/世帯/月(住民)、受益世帯数: 144,334世帯(住民 平成30年1月) 支払い意思額: 239円/人/日(観光客: 宿泊)、受益者数: 905,132人(観光客: 宿泊、平成24年～平成28年平均)</p> <p><自然再生></p> <p>【十勝川水系自然再生】 CVMにて算出 支払い意思額: 718円/年/月、受益世帯数: 167,622世帯(住民 令和4年1月) 【札内川地区自然再生】CVMにて算出 支払い意思額: 474円/世帯/月、受益世帯数: 98,253世帯(住民 平成30年1月)</p>									
事業全体の投資 効率性	基準年度		令和5年度							
	B:総便益 (億円)	614	C:総費用(億円)	69	B/C	8.9	B-C	545	EIRR (%)	84.9
残事業の投資効 率性	B:総便益 (億円)	432	C:総費用(億円)	54	B/C	8.0				
感度分析	残事業費(+10%~-10%)	8.1	事業全体のB/C	9.9	残事業のB/C	7.3	8.9			
	残工期(+10%~-10%)	9.3	8.5	8.4	7.6					
	便 益(-10%~+10%)	8.0	9.8	7.2	8.8					

事業の効果等	<p>【十勝川自然再生】 ・湿地環境、水際環境、礫河原等の河川環境の保全・創出を図る取組により、多様性と連続性を基調とした良好な河川環境が回復すると期待される。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・十勝川沿いに位置する各自治体の観光施設を結ぶサイクリングコースの整備等といった水辺に触れ合い親しむ環境及び十勝川を活かした魅力的な河川空間の創出、地域住民・観光客の利便性向上並びに地域の観光振興・活性化へ寄与することが期待される。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・市や国の管理用通路や高水敷整正などのハード整備と併せ、市のPFI事業が連携することで、十勝川を活かした魅力的な河川空間が創出され、体育館利用者や市民が水辺に触れ合い親しむことができ、恒常的にぎわい創出及び交流人口増加による地域活性化が図られることが期待される。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・自然の攪乱リズムを復活させる取組により、流路変動や河床攪乱により礫河原が再生し、礫河原依存種が世代交代していくことができる河川環境が回復すると期待される。</p>
社会経済情勢等の変化	<p>①関連事業との整合</p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・十勝川及び主要支川の沿川市町村の総合計画や都市マスタープラン等の自治体の計画では、地域活性化に関する施策として、観光・レクリエーション施設の充実、自然環境の保全、生涯学習の推進等が掲げられている。取組推進にあたっては、道路や農業などの他事業との連携についても考慮するとともに、既往の地域住民や河川協力団体、企業等との連携事例を参考として分野間連携や官民連携によって、地域活性化を進めていく。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・十勝川中流域の音更町、池田町及び幕別町では、各自治体の都市計画等（音更町は「都市再生整備計画（平成26年1月策定）」、池田町は「池田町第4次総合計画（平成27年12月策定）」、幕別町は「幕別町都市マスタープラン（平成24年3月策定）」）の中で、十勝川中流域での整備に関する計画を立てている。</p> <p>・3自治体の都市計画等を基本とし、各自治体の地方創生事業を基に自治体・国・関係者の協働による「十勝川中流域観光振興ビジョン」が策定され、それに基づき、3町の観光拠点地を結ぶサイクリングコースの設定や整備、コース上の水辺空間の整備等を柱として、十勝川の雄大な自然や景観を活かした地域の観光振興を図る。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・帯広市では、健康スポーツ都市宣言をしており、「第六期帯広市総合計画」（平成29年2月策定）において、帯広市民の体力の向上や健康の保持・増進につながる施策の一つとして、帯広市新総合体育館の改築を掲げている。</p> <p>・帯広市新総合体育館の改築を契機に、体育館の利用や隣接する河川敷の利用への期待が高まることから、まちと河川敷を繋ぐ通路の利便性を高め、スポーツ振興の場や多様な人々が交流しにぎわう場として、体育館と河川敷が一体となった整備を進める。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・地域住民と関係機関が一体となって取り組み、地域の発展に寄与する川づくりに努める。</p> <p>・札内川や礫河原再生の取組に関する情報を地域住民と幅広く共有し、河川利用に関する安全教育等の充実を図る。</p> <p>・住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を支援する。</p> <p>・教育関係者や市民団体及び地域住民とも連携しつつ、憩いの場・環境学習の場としても利用しやすい水辺の整備・保全を行うとともに、川づくりに携わる人材育成に努める。</p> <p>②河川等の利用状況</p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・流域の河川は、四季折々の自然環境や景観が大きな魅力となっており、スポーツやレジャー、エコツーリズムを楽しむ場として多くの人々に利活用されている。</p> <p>・十勝川流域では、サイクルツーリズムの推進が盛んであり、河川沿いにはナショナルサイクルルート「トカプチ400」が指定され、河川空間が利用されている。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・十勝川中流域の周辺では、毎年7月に十勝管内で開催される「イカダ下り」や河川敷を活用したビアガーデン等のイベント、民間事業によるサケに関する観察・捕獲・産卵の見学ツアー、電動アシスト付きレンタサイクルによるサイクリングイベントなど多くのイベントが開催され、市民や観光客が訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっている。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・十勝川の高水敷は、緑地公園や運動公園・パークゴルフ場が整備されており、若者から高齢者まで、日常的に利用されている。また、季節的なイベントとして、全国規模の花火大会なども実施され、例年、多くの観光客が訪れ、にぎわいが生まれている。</p> <p>・近年では、地元サイクリストを中心に、河川敷の堤防等を活用したサイクルツーリズムの機運も高まりつつある。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・札内川は、「川狩り」に象徴されるように流域の住民にとって愛着のある水辺として親しまれてきており、現在もEポートや河原でのバーベキュー等で流域住民に利用されている。</p> <p>・全道40箇所ある「子どもの水辺」のうち12箇所が十勝圏に集中しており、札内川でも小学生、近隣保育園の子ども達等に利用されている。</p> <p>③地域開発の状況</p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・十勝川水系沿川地域である1市14町2村（帯広市、音更町、土幌町、上土幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、中札内村、更別村）の令和5年1月1日現在の人口は合計で約32万人であり、近年の変化はおおむね横ばい傾向となっている。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・十勝川中流域に位置する音更町・池田町・幕別町の令和5年1月1日現在の人口は合計で約8万人であり、おおむね横ばい傾向となっている。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・帯広市の令和5年1月1日現在の人口は約16.3万人であり、横ばい傾向となっている。</p> <p>【札内川地区自然再生】 ・札内川沿川地域である帯広市、中札内村の令和5年1月1日現在の人口は合計で約19.3万人であり、おおむね横ばい傾向となっている。</p> <p>④地域の協力体制</p> <p>【十勝川水系自然再生】 ・流域の河川は、スポーツやレジャー以外にも、河川管理者と教育機関との連携による研究、実習等の場としても利活用されるなど、地域住民や河川協力団体等との協働による川づくりも行われている。</p> <p>・十勝川外流域治水協議会において、流域治水における十勝川水系の自然再生との連携について検討が進められている。</p> <p>【十勝川中流域かわまちづくり】 ・平成28年6月に、十勝川中流域かわまちづくり協議会を池田町役場内に設置され、音更町、池田町及び幕別町、各地域の商工会、観光振興関係団体、公共団体（十勝釧路管内サケ・ます増殖事業協会、十勝エコロジーパーク財団）、地元事業者、十勝総合振興局帯広建設管理部及び北海道開発局帯広開発建設部の各担当者によるワークショップ協議会を開催し、様々な視点による意見交換を行い整備内容に反映させている。</p> <p>【帯広市かわまちづくり】 ・帯広市（スポーツ振興室・商工観光課・みどりの課）、PFI事業者（指定管理者）、帯広市商工会議所、河川敷沿川の町内会、体育連盟、河川協力団体及び北海道開発局帯広開発建設部などで構成する意見交換会の場として「帯広市かわまちづくり協議会」を設置し、地域の意向を地域活性化に資する方針・計画書に反映させている。</p>

社会経済情勢等の変化	<p>【札内川地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十勝川治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした地元期成会から、信頼感のある安全で安心できる国土の形成に資する事業促進のほか、個性あふれる活力ある地域社会の形成に資する事業の促進として、札内川のケショウヤナギ更新地の保全、治水の杜づくり、子どもの水辺等の取組への支援など、自然再生や環境保全、水辺整備等について要望されている。 ・治水の杜づくりの植樹や水辺の楽校での自然観察会等の取組は、これまでも地域住民や学校等との連携・協働により進められている。
主な事業の進捗状況	<p>【十勝川水系自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度事業着手 <p>【十勝川中流域かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率：約79%（総事業費1.5億円に対し、約1.2億円実施済） <p>【帯広市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率：約70%（総事業費2.0億円に対し、約1.4億円実施済） <p>【札内川地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率：100%（総事業費約5.5億円に対し、約5.5億円実施済み）
主な事業の進捗の見込み	<p>【十勝川水系自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和35年度完了（予定） ・湿地整備、連続性確保 等 <p>【十勝川中流域かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和13年度完了（予定） ・管理用通路、親水護岸整備 等 <p>【帯広市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和13年度完了（予定） ・管理用通路、高水敷整正 等 <p>【札内川地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度完了
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p><コスト縮減の方策></p> <p>【十勝川水系自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施に伴い発生する伐開物について、自治体と連携しながら有効活用に向けた取組を実施するなど、コスト縮減に努める。 <p>【十勝川中流域かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の基盤整備や日常的な維持管理に関し、地元関係者及び民間事業者と連携しながら検討を進め、コスト縮減に努める。 <p>【帯広市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の基盤整備や日常的な維持管理に関し、地元関係者及び民間事業者と連携しながら検討を進め、コスト縮減に努める。 <p>【札内川地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施に伴い発生する伐開物について、自治体と連携しながら有効活用に向けた取組を実施するなど、コスト縮減に努める。 <p><代替案立案の可能性></p> <p>【十勝川水系自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十勝川水系自然再生の計画は、計画立案段階から河川環境等に関する学識経験者、地域の観光業等に携わる有識者等からなる「十勝川水系自然再生検討会」において議論を重ねており、現計画が最適である。 <p>【十勝川中流域かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくりの実施計画は、音更町、池田町、幕別町及び各地域の商工会、観光振興関係者、公共団体、地元事業者並びに十勝総合振興局帯広建設管理部、北海道開発局帯広開発建設部の関係者によるワークショップ協議会により議論を重ねており、現計画が最適である。 <p>【帯広市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくりの実施計画は、帯広市（スポーツ振興室・商工観光課・みどりの課）、PFI事業者（指定管理者）、帯広市商工会議所、河川敷沿川の町内会、体育連盟、河川協力団体、北海道開発局帯広開発建設部などで構成する「帯広市かわまちづくり協議会」を設置し、議論を重ねており、現計画が最適である。 <p>【札内川地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業はかつて有していた良好な河川環境を再生する取組であり、その必要性に変化はない。 ・札内川自然再生の計画は、計画立案段階から河川環境に関する学識経験者からなる「札内川技術検討会」において議論を重ねており、現計画が最適である。
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案とする。
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p><都道府県の意見・反映内容></p> <p>「十勝川総合水系環境整備事業」を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。</p> <p>当該事業は、湿地環境等の保全・創出を図ることにより、良好な河川環境の回復に寄与することなどから、関係機関と連携のうえ、早期完成を図るようお願いいたします。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。</p>